

秋山 孝輝 他

下肢虚血症状の乏しい末梢動脈疾患合併2型糖尿病患者における冠動脈疾患の有病率

糖尿病:56 75-80, 2013

糖尿病患者さんは下肢と上肢の血圧を測定するABIの検査をうけましょう

#### 論文概説

糖尿病患者さんは動脈硬化をきたしやすいことが知られています。下肢の動脈閉塞をきたす末梢動脈疾患の有病率は10-20%で、大多数は無症状です。進行すると下肢の血行不良から歩行時、安静時疼痛、壊疽をきたしますので早期診断が必要です。末梢動脈疾患は下肢と上肢の血圧の比であるABI(ankle brachial pressure index)にてスクリーニングできます。ABI $\leq$ 0.9では下肢動脈狭窄の可能性が高いといわれていますが、最終診断は血管造影検査が必要です。

そこで練馬総合病院に通院中の糖尿病患者さん(平均年齢65歳)にABI検査を実施しました。ABI $\leq$ 0.9の方は全体の中で10.2%、血管造影検査で末梢動脈疾患と診断した患者さんは全体の中で7.9%でした。また末梢動脈疾患の患者さんは冠動脈疾患を併発する可能性が高いことも今回の調査結果でわかりました。診断した患者さん全てに薬物療法や手術、ステント治療が必要というわけではありません。血糖、血圧、脂質のコントロールとともに、運動療法、禁煙は有効です。早期に末梢動脈疾患を診断し進行させないことが重要です。まずはABI検査を受けていただくことをお勧めします。